

## 令和4年度岐阜県スポーツ推進審議会／スポーツ推進県民会議議事要旨

- 1 日 時 令和4年11月17日（木）13：30～16：00
- 2 会 場 県庁議会西棟3F 第1会議室
- 3 出席委員 大友克之会長、西本裕副会長  
有賀信彦委員、浦崎邦子委員、大城順子委員、岡本敏美委員、川瀬衣津子委員  
小森崇稔委員、猫田孝委員、波賀野里美委員、伏谷美香委員、  
増田和伯委員、宮井遥委員、渡邊丈展委員、相宮定委員、狩野靖委員
- 4 会議の形態 非公開
- 5 挨拶 長尾安博（岐阜県清流の国推進部部长）  
大友克之（岐阜県スポーツ推進審議会会長／スポーツ推進県民会議座長）
- 6 議 題
  - (1) 「第2期清流の国ぎふスポーツ推進計画」に基づく主な施策の実施状況
  - (2) 岐阜県スポーツ推進審議会／スポーツ推進県民会議企画分科会からの提言
- 7 議事要旨  
(事務局)
  - ・本会の成立について、岐阜県スポーツ推進審議会条例第5条第2項に基づき、半数以上の委員の出席があり成立
  - ・令和4年度岐阜県スポーツ推進審議会県民会議新任委員の紹介
  - ・議事録署名委員の選出  
  - (1) 「第2期清流の国ぎふスポーツ推進計画」に基づく主な施策の実施状況  
推進計画の5つの柱に沿って令和4年度の実績及び令和5年度の取組みについて説明
    - I 生涯にわたる健康と生きがいづくりのスポーツ推進  
説明者：体育健康課長、地域スポーツ課長
    - II 世界や全国を目指すアスリートの競技力向上  
説明者：競技スポーツ課長
    - III 障がい者の活躍を広げるパラスポーツの推進  
説明者：地域スポーツ課長、競技スポーツ課長、障害福祉課長

#### Ⅳ 地域資源を活かしたスポーツによるまちづくり

説明者：地域スポーツ課長

#### Ⅴ 誰もが楽しめるスポーツ環境の整備

説明者：体育健康課長、地域スポーツ課長

### (2) 岐阜県スポーツ推進県民会議企画分科会からの提言

西本委員より分科会設置の経緯、分科会での議論及びそれを踏まえた提言について報告  
大友会長より提言内容の県施策への反映について検討するよう依頼

## 8 各委員からのご提言

### (増田委員)

#### ・ 競技力向上 (資料 P7)

今年の国体における好成績は今までの県の取組みの成果が出たのではと思っている。  
強い危機感をもって県が各競技団体とともに戦略的に取り組んできたことが結実した。  
この順位を維持するためにも強化費を増やしていただきたいと思う。

#### ・ 学校部活動の地域移行 (資料 P3)

来年度からまったなしで始まる。体育健康課が定期的に検討会を開催しているところ。  
移行には多様なスタイルがあり、試行錯誤しながらになると思う。  
学校任せではなく県もそうだが、市町村教委がリーダーシップをとって進めてほしい。  
我々も指導者の育成について協力をしていきたいと考えている。

### (西本委員)

#### ・ 競技スポーツ

国体結果の V 字回復、特に少年女子で大きな成果がでているが、その要因は。

#### → (競技スポーツ課長)

コロナ禍で練習時間がない中、創意工夫をしたという話を指導者からは伺っている。  
また、大会にあたりモチベーションを上げるための仕掛けなども行った。選手が一丸となって戦ったというのが大きいと考えているが、具体的な要因の特定は難しい。  
今後も詳細な分析を行いたい。

#### → (西本委員)

指導者養成は時間がかかり簡単に成果に結びつくものではないが、この部分は非常に重要であり予算を十分に配分することが重要と考える。

#### ・ パラスポーツ

岐阜県は全国と比べて成人のスポーツ実施率が低い、パラスポーツ、軽スポーツ、ユニバーサルスポーツといった方がいいかもしれないが、働く方も比較的取り組みやすいこれらを活用して、スポーツ振興を図れるとよいと考える。

(渡邊委員)

- ・レクリエーションへの取組み (資料 P2)

皆さんのご協力をいただき県民の健康増進のためミナレク運動を推進している。

コロナ禍にあっても、感染対策をとって対面で交流することを大切にしている。

レクリエーションフェスティバルも、昨年度を上回る参加者が見込まれている。

R7のねんりんピックに向けてミナレク運動に取り組み、スポーツ実施率向上につなげていきたい。

(有賀委員)

- ・成人の週1回以上のスポーツ実施率の目標値設定の考え方は (資料 P1)。

現状に対し目標が高すぎではないか。目標を達成したら次の目標をどう設定するのか。

→ (地域スポーツ課長)

今回の計画では第1期計画の目標である65%を引き継いだ。非常に高い目標と考えており、次の目標を考えるよりは、まずは現目標の達成を目指したい。

- ・国体の順位は岐阜県にとってどこからが好成績といえるのか。

→ (競技スポーツ課長)

ぎふ清流国体以降、県としては天皇杯・皇后杯8位を目標として取り組んできた。

しかし、都市部の都道府県が上位成績を挙げているといった実態等があることから、県の過去の各競技成績の平均値を算出し天皇杯・皇后杯15位を目標とした。

- ・強化アスリート (資料 P7) について、個々の選手を指定するのは賛成だが、部を指定するのは不公平であり反対である。部を指定する理由は。

→ (競技スポーツ課長)

従来は中学校も指定をしていたが、現在は高校のみとするなど見直しを図っている。

また、県で1位の高校だからではなく、国体で活躍可能な選手が属している学校ということで選手本位の強化指定をしている。制度については、適宜見直しをしているところだが、委員のご指摘も踏まえて今後も制度の在り方を検討したい。

(浦崎委員)

- ・パラスポーツ

指導者と競技者、2つの立場からパラスポーツに関わっている。

指導者確保が課題のため、若い指導者が活動しやすいよう環境整備をお願いしたい。

選手の立場からするとトイレの問題は非常に重要である。岐阜メモリアルセンターもトイレのユニバーサル化が進んでいるが、オストメイト対応トイレの設置状況は。

→ (地域スポーツ課長)

現在岐阜メモリアルセンターで実施している改修工事ではオストメイト化は対応しておらず、今後はオストメイト化も含めて改修を進めていきたい。

現状のスペースで改修を行う関係上、難しい場合もあるが、障がいのある方になるべく不自由がないような施設整備に努めてまいりたい。

**(狩野委員)**

- ・ 県として育成したい選手は国体や五輪で活躍する選手だと思うが、例えば大谷選手のように見ていて楽しい選手を育てることも計画のどこかにあるとよいと考える。
- ・ 今の高1は、中2、中3の時にコロナ下で運動経験が少なく、ケガをしやすい、すぐ休むなど、心身の発達に影響が出ているように感じる。コロナによる部活動などの活動制限は、子供に与える影響が非常に大きいということを承知しておいてほしい。

**(小森委員)**

- ・ スポーツ推進計画は、競技力向上という側面が強いのではないかと。

→ (地域スポーツ課長)

競技力向上の側面が強いことは否定できないが、我々としては「誰一人取り残されないスポーツ立県・ぎふ」を目標に掲げており、スポーツ実施率の向上を図るため、ミナレク運動の全県展開、乳幼児の運動習慣形成、自主的なスポーツ参加を促すためのスポーツ・ポイント事業についても重点的に取り組んでいきたい。

- ・ ぎふ清流国体の際に選手の雇用に協力した経験から選手の暮らしを支えることは重要と考えるが現在の取り組み状況は。

→ (競技スポーツ課長)

- ・ ぎふ清流国体から10年経過しふるさとへ帰った方、残った方など様々である。県では企業と選手をマッチングするための取り組みを行ってきたが、うまくいかなかった。今後はアスリート雇用を促進するため企業のニーズや問題点などの調査を進めたい。

**(岡本委員)**

- ・ とちぎ大会は4年ぶりの全国障害者スポーツ大会となった。台風で中止となった、いばらき大会の選手の多くが引続き参加いただき好成績につながったと考えている。
- ・ 競技力向上については、県スポーツ科学センターの活用や福祉清流エリアのアリーナとプールの整備が成果につながっていると感じている。
- ・ 裾野拡大については、パラスポーツフェスタを圏域ごとに開催いただけると聞いているので、スポーツのすばらしさを伝えるためにも引き続きよろしくお願ひしたい。

**(川瀬委員)**

- ・ 本園をACP(資料P2)の推進園としていただき保護者からも感謝の声が聞かれた。
- ・ 14園からのスタートとなるが、ACPが全県に展開していければと思う。
- ・ 現状の課題としては保育士や教諭の不足が挙げられる。取り組みを円滑に進めるためにも職員や指導者の確保にもご尽力いただきたい。

**(伏谷委員)**

- ・ 指導者の資質向上のため共通する基礎知識を学べるような支援をお願いしたい。また、スタートコーチ資格の取得も非常に重要と考えるので補助をお願いしたい。
- ・ 部活動の地域移行について、クラブ＝強化というイメージをもたれており、スポーツが苦手な子が敬遠するのではないかと心配。移行がうまくいくか、今後の動向が気になる。

(相宮委員)

- ・運動部活動の地域移行が学校の規模や受け皿の状況等により地域差が大きい。特に、指導者確保に不安を感じており、実証事業やモデル校の状況・結果を早目に情報提供いただきたい。令和5年度に向けて、取組みを拡大し重点的に取り組んでほしい。

(宮井委員)

- ・日頃からチームへのご理解・ご協力いただき感謝。
- ・ジュニアの育成にも取り組んでいきたいと考えており支援をお願いしたい。
- ・大会運営にあたり人員確保が課題となっている。他県は充実していると聞いているが、岐阜県はボランティアスタッフの確保についてどう取り組んでいるか。

(大城委員)

- ・コロナ下での子供の体力に関する全国調査に協力した。ご協力いただいた県内市町村の教育長からはコロナ下で子供の体力が大きく落ちているという実態を伺った。
- ・幼児からの運動習慣を形成する環境づくり(資料P2)については、昔から必要性を訴えてきた。幼児期からスポーツに親しんでいると、その後競技をしても活躍するケースが多く、競技力向上にもつながるように感じているため、これからも継続してほしい。
- ・また、最近学校にオリンピック選手が来てくれたという話題を聞くが、子供の夢を広げるとても良い取り組みであり、今後も力を入れてほしい。
- ・トイレの整備も大切だが屋外で更衣室がないという声を聞く。対応を検討してほしい。

(波賀野委員)

- ・部活動の地域移行については、市町村がついていけないように感じる。県には、市町村へ繰り返し説明するなど環境を整えてほしい。県のリーダーシップに期待している。
- ・国の総合型地域スポーツクラブの登録認証制度が今年から始まった。県では先進的に認定制度を開始しているが、今後は国の制度との整合性を考えてほしい。
- ・現64クラブの中で県の基準に達していないものもあると聞いているが、どう整合をとるか審査が必要ではないか。

(猫田委員)

- ・委員の皆さんの貴重なご意見、大変参考になった。県担当課も参考になったと思う。
- ・委員の皆さんは各分野において県のスポーツ振興についてご尽力いただき感謝。
- ・今回の国体の成果を一過性のものに終わらないよう継続していくことが大切。
- ・我々議員連盟としても選手強化にむけた予算獲得のためしっかりやっていきたい。

(浦野体育健康課長)

→中学校部活動の地域移行について、貴重なご意見・ご要望をいただき感謝。

部活の主体が戦後、学校であったものが地域へ移行するという事で、市町村、学校、地域のクラブの皆さんが苦勞されていることは承知している。

市町村によって運営主体が異なり何か一つに絞ることは難しいが、年度内に地域移行の手順をまとめたガイドラインを作成しお示しするので、円滑に移行が進めばと思う。